



『自分との戦い』

山口県
西岐波少年剣道教室
小学6年 三井翔太

「自分の剣道、自分の剣道」

ぼくは何度も心の中で思った。なぜなら、自分の剣道をすれば、この試合に勝てると思ったからだ。先生方や、チームメイト、西岐波少年剣道教室の役員、そして家族。ぼくは、その方々の笑っている姿を見たかった。

四月に行われた山口県剣道道場連盟の試合、それは、七月に行われる道場連盟全国大会の予選でもある。ぼくたちは一回戦で勝った。しかし、これからがつらくなるだろうとぼくは思った。でも、

「がんばる！」

と思うほうが強かった。

お互いの礼をした。ここからが運命の三回戦だ。チームが勝利すると、全国大会出場決定だ。ぼくはジャンプをして、気合いを入れた。ぼくは、チームに勢いをつける役だ。それが先鋒だ。そう思うと、体がふるえてくる。緊張している証拠だ。この勝負に勝ちたい、勝って日本武道館に行きたい。そう思ったおかげか、緊張がほぐれた。

「始め！」

ぼくは腹の底から大きな声を出した。しかし相手は、そんな声でひるみはしない。逆にぼくの方が押されている気がした。チームメイトは、ハラハラドキドキしているだろう。でもここで終わるわけにはいかない。このまま引き分けると、次鋒にバトンタッチができない。その思いが強かったのか、自分の足が、自然に前へ出た。そして、一足一刀の間合いまで攻めると、この一本にかけた。合い面だったからだ。少しでもおくれると、先に面を入れられる。ぼくは、稽古でなるべく速く、強くすることに意識していた。その練習をこの試合で生かそう。ぼくはそれを目標にしていた。今こそそれを使う時だ。一部の会場は、一瞬にして静かになった。ぼくは三人の審判を見た。三人ともぼくの方の旗を上げている。

「面あり！」

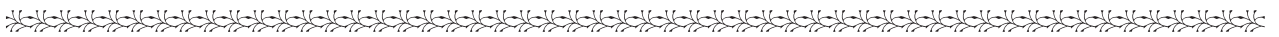
ぼくは、ものすごくうれしかった。これで勢いがついた。二本目もよく攻めて、面をとった。あの時の達成感をぼくは、絶対に忘れない。

しかし、三回戦目で、ぼく達、西岐波少年剣道教室は、負けてしまった。それは、ぼく達に、何かが足りなかったからだ。でも、ぼくは決して悔しくない、なぜなら、

「どうして負けてしまったのかを考える」

という新しい目標が出来たからだ。

その答えを見つけるために、日々の稽古で、自分の剣道の中に、



「絶対に諦めない」

という言葉をしっかり心に叩き込もうと思う。そして、先生方、西岐波少年剣道教室の役員の方々の感謝の気持ち、それと、今回の試合で学んだことを、次の試合で生かそうとぼくは改めて思った。

「諦めなければ、もっとがんばれる」

とはそういうことだ。ぼくは、まだ心の一ページを開いたばかりだ。だから、新しい目標に手がとどくように、日々の楽ではない稽古にたえ、日々努力することを誓う。